

ひろしまの遺跡

第120号

山城の建物基壇が

—野原山城跡（広島市安芸区上瀬野町）—



空中写真（東から・矢印部が調査地点）



平坦面と石垣

広島市安芸区上瀬野町にある野原山城跡の調査を行いました。丘陵頂部に主郭となる平坦面があり、その東西両側を堀切で防御しています。頂部の平坦面の一部と周囲の堀切などを発掘調査しました。石垣は、頂部の平坦面のほぼ中央部に位置し、南北方向に延びる溝状遺構の中に造られています。石垣は5段で、西側を正面としています。石垣の西側には門の礎石と思われる石列があることから、この石垣は西側を出入り口とする何らかの建物の基壇と考えられます。

発掘調査速報

① 野原山城跡（広島市安芸区上瀬野町）

調査期間 平成30年5月7日～10月12日

野原山城跡は東から西に延びる丘陵の先端近くにあります。頂部に主郭となる平坦面があり、平坦面の西側に1条、東側に5条の堀切、平坦面の南側には通路状の遺構があります。

頂部の平坦面は東西方向に長い扁平な五角形状で、東側には土塁状の高まりが残っています。調査は道路建設に伴うもので、平坦面の西半部から溝状遺構9条、石組2か所、土坑9基、柱穴群などの遺構を確認し、数棟の建物があつたと想定されます。

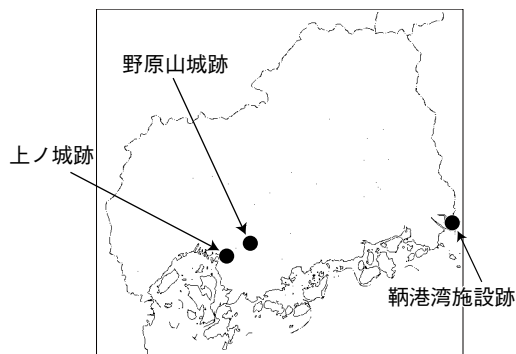
遺物は、土師質土器（皿・鍋・釜・すり鉢）・瓦器（火鉢）・陶器（甕・すり鉢・香炉）・磁器（碗・皿・壺）・古銭（開元通宝・朝鮮通宝）・砥石・硯・刀子・釘・壁土などが出土しており、主に15～16世紀代の時期と考えられます。（唐口勉三）

② 上ノ城跡（安芸郡坂町坂東4丁目）

調査期間 平成30年5月7日～6月15日

城跡は坂町の南に突き出した標高60mくらいの丘陵の先端部にあります。住宅地に近接しているため、がけ崩れ防止の擁壁工事に伴って、城跡の一部を発掘調査しました。

城は、丘陵の先端を大きな堀切で切断し、3つの平坦面（郭・曲輪）で構成されていました。発掘調査では、新たな堀切を発見し、総面積500㎡に満たない小規模な城ながら、工夫を凝らして築城されていることが窺われました。新たに発見した堀切の中から14世紀後半から15世紀前半頃の備前焼や常滑焼、中国製の白磁、土師質土器などのほか、土錘や砥石、鉄滓などもみつけられました。また、坂町では初めての弥生土器も発見され、調査終盤に開催した見学会には、町内外から多くの皆さんにお越しいただきました。（伊藤 実）



平坦面の遺構群



堀切のようす



2郭の堀切の発掘のようす



見学会のようす



雁木全景（南西から）

北雁木第2次

調査期間 平成30年7月2日～7月27日

北雁木第2次調査は、北雁木の陸側に高潮対策として設置する起伏式ゲートの工事に伴うものです。

調査の結果、石組暗渠と排水土管を確認しました。石組暗渠は調査範囲のすぐ北側に位置する倉の側溝のほぼ直線上に位置していました。また、この暗渠の西側に、現在に至るまで使用されている排水土管が確認されました。この土管は全国的に流通した常滑焼の土管だと考えられます。土管の使用開始時期は調査中ですが、この暗渠を破棄した後、土管を排水管として使用していると考えられます。（金石明久）



北雁木第2次調査前状況（南東から）



排水土管（南から）



石組暗渠（南から）

東雁木第1次

調査期間 平成30年4月9日～平成31年3月中旬(予定)

靱港湾施設跡の発掘調査は、靱地区の高潮対策として実施される防潮堤の設置に係る雁木の修復工事に伴うものです。昨年度は北雁木について調査を実施しましたが、今年度は東側にある東雁木について調査を行っています。

東雁木は全長68mで、北雁木に連なる部分から調査を行っています。現在まで15m分の調査を実施して、雁木の基礎となる埋立土の下から北雁木から続くと考えられる石垣を確認しました。

右写真の石垣は、東雁木北側のやや屈曲した箇所です。新たに確認した石垣で、時期などについては、検討中です。東雁木は現在までの調査の結果、複数回にわたり雁木の積み直しなどの改修工事が行われていることが分かりました。現在は、雁木の石材を撤去して記録作業の後、雁木の復元工事が行われています。

（恵谷泰典）



東雁木 調査前（北西から）



東雁木 石垣検出（西から）

知られざるひろしまの遺跡探訪

広島発！ローカル(乗合)列車・バスで行く遺跡探訪ツアー



有田城跡（背後の山）



中部砲台跡



古保利古墳群にて



長浦毒ガス貯蔵庫

第1回（平成30年5月19日）

第1回は山県郡北広島町有田（旧千代田町）へ。毛利元就の初陣である有田合戦の舞台と、古保利古墳群などを見学しました。

有田合戦において安芸国分郡守護の武田元繁を打ち取った元就は、その後中国地方一帯を治める大名へと成長しました。有田城跡の麓に点在する武田元繁をはじめとする戦国武将の戦死碑を巡りながら有田城跡を目指しました。小雨の降る中登った郭からは、古戦場が一望でき、毛利・吉川軍と武田軍の戦いに一同思いを馳せました。午後は国重文の仏像が収められた古保利薬師と、その周辺に広がる古保利古墳群を見学しました。古墳群は1基の前方後円墳と52基の円墳で構成されており、散策道を通して一部を見学することができます。一日山の中を歩いてくたくたになりましたが、北広島町教育委員会の方の解説により、実り多いツアーとなりました。

第2回（平成30年6月17日）

第2回は竹原市大久野島へ。現在はいさぎ島として有名ですが、明治時代に芸予要塞として整備され、今も砲台跡などが残っています。また、太平洋戦争の頃には毒ガス工場が造られていました。機密を守るため地図上では空白にされており、「地図から消された島」と呼ばれます。当日は天気にも恵まれ、船で島に渡るとたくさんのうさぎがお出迎えをしてくれました。中部・北部砲台跡などの芸予要塞関連施設と、発電所跡や毒ガス貯蔵庫跡など毒ガス工場関連施設を見学しました。どこにいてもうさぎの歓迎を受け、のどかな時間を過ごせる反面、島全域に分布する戦争関連施設からは現在も物々しい雰囲気を感じます。これらの施設はいずれも整備などはされておらず、いつまで見学できるか分かりません。平和のありがたみを改めて感じる事ができるこの島を、ぜひ活用してほしいと思います。

南観音考古学教室Ⅵ

見る・聞く・やってみるの考古学

7月21日（第1回）・8月4日（第2回）・8月23日（第3回）・9月29日（第4回）の4回にわたって、南観音公民館と共催で考古学教室を開催しました。夏休みということもあって、親子での参加が多くみられました。勾玉づくりにはリピーターも多く、「今年はもっと上手につくるんだ!」という意気込みを聞かせてくれた子もいました。考古学教室を通じて、歴史に興味を持ってもらえたのではないかと思います。

第1回 きらきら教室



勾玉をつくりました



ネックレス
完成!



大人も
子どもも
夢中です

第2回 こねこね教室



うまく
できるかな

どれも力作!



第3回 古代の鑄造体験とマル秘お仕事拝見・体験



職場見学



職場見学のあとは鑄造体験



ぴかぴかのお金♪



調査員に質問!



きれいにできてるかな?

第4回てくてく教室
（五日市～楽々園の
史跡散策）は、雨天
のため中止となりました。

考古学 アラカルト 50



木製品が多量に出土した草戸千軒町遺跡の発掘
(広島県立歴史博物館展示図録1989年 P105より)

出土した木製品の保存

—最近流行りの糖類を使った出土木製品の保存—

発掘後取扱いが一番厄介なのが、水分の多い低地の遺跡などからみつかる木や紙、布などでできた出土品です。特に木製品は、地中の豊富な水分によって形が保たれているので、そのまま乾燥させると、変形やひび割れを起こし、形が残らないほど変質してしまいます。

これを防ぐために、出土した木製品に含まれる水分と乾燥状態でも形を保つ物質とを入れ替える処置が必要となります。

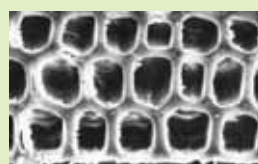
これまで広く行われてきたのが、PEG（ポリエチレングリコール）と水を入れ換える方法です。PEGは、現代の木材加工の現場で木材の変形防止剤としてよく使われている工業材料で、水によく溶ける性質があるため、木材の水分と入れ換え、木材の収縮を防ぐ有効な材料として使われています。

この方法を応用した出土木製品の保存処置では、低濃度のPEG溶液に木製品を浸漬し、その後徐々に濃度を上げて、最終的に100%にして、木製品に含まれる水分をすべてPEGに置き換えるという作業を行います。

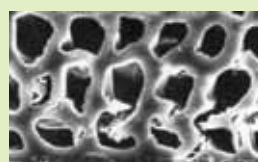
しかし、この方法は少し時間がかかり（通常1年間）、またPEGは高湿度（70%以上）で溶け出す性質があるので、処置後の木製品は、空調設備のある収蔵庫などで低湿度（55%以下）に保って保管する必要があります。

そこで、最近PEGに代わる材料として使われだしたのが、トレハロース（略称トレハ）という糖類です。トレハは、昆虫や植物に含まれる糖類ですが、抽出が難しく高価な希少糖類でした。ところが、今から25年ほど前にバイオ技術によって、でん粉から安価に製造する方法が確立され、変質しにくく、高い保水力があるトレハは、現在では菓子パンなどの食品のほか、化粧品や医薬品にたくさん使われています。特に饅頭などの和菓子に使われるのは、砂糖に比べて甘さが3分の1なのに防腐作用は砂糖に勝るため、甘さ控えめで日持ちのする和菓子が作れるからです。

トレハによる出土木製品の保存処置は、P



生木の細胞構造



乾燥して変形した木材の細胞構造
(上の写真とも(有)ユニテックH.P.より)



乾燥して変形した木製品



PEG（4000は分子量）
白いフレーク状



トレハロース（トレハ）
白い粉状

E Gと同じように低濃度のトレハ溶液（20％）から徐々に濃度を上げて、トレハが水に溶ける限界濃度の72％まで高濃度にして、出土木製品の水分とトレハを入れ換え、その後乾燥させるというものです。トレハはPEGに比べて分子量が低く（粘性が低い）、処置の期間も約2～3か月で完了します。また、PEGに比べて乾燥して軽く仕上がり、その後の接着作業などでも接着剤がよく効きます。

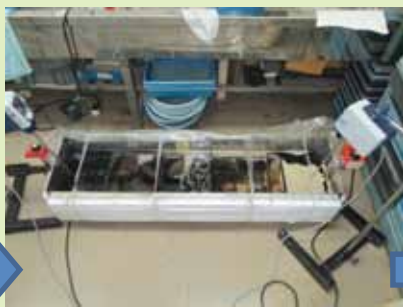
当室では、古墳時代から中世の小型の木製品が水漬けで冷蔵保管されていますが、今年度から試験的にトレハによる保存処置を開始し、出土品の保存と保管の省スペース化や展示等に利用できることを目指しています。



工程1 木製品を水槽に入れる



工程2 水槽を60℃に加温する



工程3 トレハの濃度を徐々に上げる



工程4 トレハを乾燥させる



処理する前の木製品



処理後の木製品

インターンシップ研修

8月20日～24日に、当室でインターンシップ研修を実施し、安田女子大学の学生2名が参加しました。研修では、遺跡から出土した遺物の洗浄や、出土地点などを書き込むネーミング作業、古銭の拓本などの整理作業のほか、博物館の企画展に貸し出す資料の準備などを行いました。「遺跡から出土した資料が博物館に並ぶまでに、こんなに多くの手間がかかっているとは思わなかった。」「裏方の大切さを知った。」という感想が聞かれました。また、23日に開催した南観音考古学教室（第3回）では、実際に参加者の前で整理作業や古銭の鋳造方法の説明をしてもらいました。緊張しながらも明るく爽やかに話す2人のおかげで、参加者もリラックスしてイベントに参加できたようです。



鋳造の説明をしています



遺物の洗浄中

— 疑問を解決!? 考古学基礎講座 —

会 場 広島県立総合体育館 地下1階 中・大会議室

(広島市中区基町4番1号 電話: 082-228-1111)

時 間 13時30分～15時00分 (開場は13時)

定 員 100名

聴講無料
申込不要

回	期 日	演 題	講 師(全て当室職員)
1	平成30年 12月1日(土)	旧石器・縄文時代のイロハ — 何が分かっているのだろう —	辻 満久
2	12月22日(土)	弥生・古墳時代のひろしま	山田 繁樹
3	平成31年 2月2日(土)	古代山城について考える — 神籠石(こうごいし)って何? —	島田 朋之
4	2月16日(土)	発掘調査員のお仕事 中世の遺跡に見るまじない — 吉川元春館跡を中心に —	金石 明久 岩本 芳幸
5	3月9日(土)	中世の城館跡	沢元 保夫
6	3月23日(土)	近世・近代の発掘調査 — 広島陸軍兵器支廠の事例 —	順田 千織

平成30年度「ひろしまの遺跡を語る」

平成31年1月19日(土)

会 場 広島県民文化センター 多目的ホール (530席)

(広島市中区大手町一丁目5-3 電話: 082-245-2311)

時 間 13時00分～16時00分 (開場は12時30分)

聴講無料
申込不要

13:10～ 2018年度発掘調査成果報告

14:20～ 講演「中世山城の魅力」

静岡大学名誉教授・(公財)日本城郭協会理事長 小和田哲男

あとがき

7月の豪雨災害では、野原山城跡と上ノ城跡のある安芸区上瀬野町および安芸郡坂町でも大きな被害がありました。被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

今年度で7回目となる考古学講座では、当室職員が基礎講座をテーマにお話をさせていただきます。ぜひご参加ください。

(C J)

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第120号

発行日 平成30年11月30日
編 集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4-8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <http://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発 行 (公財)広島県教育事業団
印 刷 株式会社ニシキプリント

